

淨土宗聖典

第六卷

淨土宗

淨土宗聖典

第六卷

目次

法然上人行狀繪図

| | | | | | |
|------|------------|-----|-------|----------|-----|
| 第一卷 | 誕生 | 三 | 第十七卷 | 聖覺法印 | 一九六 |
| 第二卷 | 出家 | 一二 | 第十八卷 | 宗義顯彰 | 二一二 |
| 第三卷 | 修學 | 一八 | 第十九卷 | 諸人帰依(一) | 二三五 |
| 第四卷 | 諸學者歴訪 | 二五 | 第二十卷 | 諸人帰依(二) | 二五三 |
| 第五卷 | 智慧第一 | 三七 | 第二十一卷 | 御法語(一) | 二七一 |
| 第六卷 | 立教開宗 | 五五 | 第二十二卷 | 御法語(二) | 二九八 |
| 第七卷 | 靈感瑞現(一) | 七一 | 第二十三卷 | 御法語(三) | 三二五 |
| 第八卷 | 靈感瑞現(二) | 八二 | 第二十四卷 | 御法語(四) | 三五〇 |
| 第九卷 | 宮中如法経 | 九四 | 第二十五卷 | 御消息 | 三六四 |
| 第十卷 | 三帝受戒 | 一〇五 | 第二十六卷 | 御家人帰仰 | 三八五 |
| 第十一卷 | 選択集撰述 | 一一八 | 第二十七卷 | 熊谷蓮生 | 四〇二 |
| 第十二卷 | 月卿雲客帰依 | 一二七 | 第二十八卷 | 津戸三郎 | 四二五 |
| 第十三卷 | 聖護院往生・師範帰仰 | 一三五 | 第二十九卷 | 一念義停止 | 四五二 |
| 第十四卷 | 大原問答 | 一四八 | 第三十卷 | 東大寺造営と和歌 | 四六八 |
| 第十五卷 | 慈鎮・良快帰仰 | 一六三 | 第三十一卷 | 七箇条起請文 | 四八五 |
| 第十六卷 | 明遍僧都 | 一八四 | 第三十二卷 | 登山狀 | 五〇一 |

| | | | | | |
|-------|---------|-----|-------|----------|-----|
| 第三十三卷 | 上人流罪 | 五三七 | 第四十一卷 | 毘沙門堂明禪婦依 | 六二三 |
| 第三十四卷 | 配所下向 | 五四八 | 第四十二卷 | 滅後法難 | 六三八 |
| 第三十五卷 | 配所化導 | 五五六 | 第四十三卷 | 上人の門弟(一) | 六四八 |
| 第三十六卷 | 勅免婦洛 | 五六七 | 第四十四卷 | 上人の門弟(二) | 六六八 |
| 第三十七卷 | 上人往生 | 五八一 | 第四十五卷 | 上人の門弟(三) | 六八五 |
| 第三十八卷 | 諸人靈感・廟堂 | 五九一 | 第四十六卷 | 上人の門弟(四) | 七一二 |
| 第三十九卷 | 七七日追善 | 六〇〇 | 第四十七卷 | 上人の門弟(五) | 七二九 |
| 第四十卷 | 諸学匠念仏誹謗 | 六一〇 | 第四十八卷 | 上人の門弟(六) | 七五四 |

解題 七六九

全卷完結の辞 八二三

浄土宗聖典刊行委員長 高橋弘次

題字 浄土門主 中村康隆 猊下

法然上人行狀繪圖

〈凡例〉

(一) 本巻には、国宝『法然上人行状絵図』（全四十八巻、知恩院蔵）の詞書（全二百三十五段）とその釈文を収めた。

(二) 翻刻に当つては、小松茂美編『続日本絵巻大成』所収『法然上人絵伝』（中央公論社）の詞書写真版を用いた。

(三) 原本では同一文字についても古体、異体、略体、書写体などが混用されているが、これらを統一することなく、字体はつとめて原形を保存し、原本の姿を忠実に伝えるように努めた。

(四) 異体字の類で字体が甚だしく異なるもの、頻出するものなどは原本の字体を残したが、一部を例示すると次の通りである。

| | | | | | | | | |
|------|------|------|------|--------|------|------|------|------|
| 崑(喜) | 𠂇(等) | 𠂇(樂) | 吳(異) | 尺(釋) | 功(功) | 吋(時) | 坐(坐) | 剋(刻) |
| 欵(歟) | 化(化) | 弘(弘) | 局(卷) | 解(解) | 遠(遠) | 致(殺) | 熾(赫) | 鼻(曼) |
| 穀(穀) | 畠(圖) | 帛(紙) | 勢(紙) | 才(第・弟) | | | | |

(五) 変体仮名は現行の平仮名に改め、ハ、ニ、ミの片仮名はこれを保存使用した。

(六) 原本での改行は「」で示し、閲読の便を考えて、適宜、読点を付した。

(七) 各巻の章段については、忍澁の『勅修吉水円光大師御伝略目録』に従い、頭部に「」を付して段数を示した。また各巻とも別紙奥書があり、これを収録した。

(八) 釈文では、漢字の字体を常用漢字、新字体とし、現代仮名遣いとした。また句読点、並列点、濁点を加え、全文にルビを付した。また、漢文はつとめて読み下し文に直した。

(九) 詞書が仮名であっても、釈文では適宜、該当する漢字に改めたが、前項(二)の『法然上人絵伝』所収釈文(神崎充晴編)を参照した。

(十) 釈文では、詞書での註記を()で、また書名は『』、引用文や問答文は「」で標示した。

(十一) 用語の読み方については概ね次の方針に拠った。

(1) 浄土宗の名目や仏教語は伝統的な読みに従う。

(2) 一般用語に新旧の読みがある場合、基準として『広辞苑』(第五版)を参照し、並出されたものは古い読み方を採り、他は現代読みで対応する。

〔例〕 異香(いきょう)、男女(なんによ)、書籍(しょせき)、むまる(生まる)

(3) おどり字は使用せず、た、し↓ただし、ゆめく↓ゆめゆめ、のように記す。

(十二) 漢文引用箇所や朱筆訂正などで、原文が明らかに誤っている場合、釈文において正しく表記した。

(十三) 釈文の上欄に、主要な事項その他を標出したが、必ずしも整一ではない。標出文のうち宗祖に対しては、巻ごとに初出のみ「法然上人」とし、再出の場合は上人の尊称のみとした。